

ユリシーズ 第11挿話の考察

音楽的技法	構成	p2-12
	文章	p13-15
語りについて		p16-17
まとめ		p18

*あくまで素人の考察なので誤りもあるかと思いますが・・・アマチュアの特権ということでご容赦ください

2021/4/26 ぬしろかずや

音楽におけるフーガ

フーガ：主題が順次各声部に現れ対位法的な応答によって成り立つ曲。別名追走曲

対位法：複数の旋律をそれぞれの独立性を保ちつつも調和して重ね合わせる技法

The beginning of "Kyrie" in W. A. Mozart's "Requiem" (KV 626)

Soprano Ky-ri-e e-le-i-son, e-le - -

Alto Christe e-le - - - - i-son,

Tenore Christe e-le - - - -

Basso Ky-ri-e e-le-i-son, e-le - - - - i-son, elei-son, Ky - -ri-e

Mozart レクイエム “Kyrie”ではBassがまず主題(ky-ri-e...)を歌いAltoがそれに応答、次いでSopranoが主題を再び歌い、Tenoreがそれに応答する形式を取っている＝2重フーガ
すなわち、ここではBas-Alt、Sop-Tenの組み分けで調和させつつも追っかけこを実現している

第11挿話でジョイスは複数の登場人物を対位法的に調和させつつ、オーランド・ホテル酒場での出入りや会話を通じて挿話内にフーガを出現させようとした

⇒**第11挿話は誰が何を話し、それに対し誰が呼応したのかが重要**

～第1楽章：噂～

ページ数	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442
序曲		①								
ドゥーズ/ケネディ										
サイモン/ベン								②		
ブルーム										
ボイラン										

* オレンジの塗り潰しはそのページ(U.Y.)での登場or言及を意味する

①：前奏

P433～P436の文章の羅列(=序曲)はこれから第11挿話で起きることを記載⇒前奏orチューニング(音合わせ)か開始！で音楽は始まる

②：ドゥーズ・ケネディとブルームの2重奏フーガ

総督騎馬隊を見つめるドゥーズとケネディ、同じ頃近くを歩くブルーム
⇒あたかもブルームを見て彼女達は話しているような錯覚

もう一つの目！(U-Y 11.440)

→ブルー何某の黒い目が(同頁)

→ぎよろぎよろ目、脂ぎった目あのぎとぎと鼻と結婚するなんて(U-Y 11.441)

→ブルームと結婚、脂ぎとぎとブルームと(同頁)

⇒リディアにブルームが応答しそれを繰り返すことで盛り上がる

～第2楽章：入場～

ページ数(U-Y)	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453
ドゥーズ・ケネディ											
サイモン(テノール)	▼										
レネハン	③	▼				③			⑤		⑥
ボイラン	④	④		④	④		▼				
ブルーム						③	▼			③	
ベン(バス)											▼

* オレンジの塗り潰しはそのページ(U.Y.)での登場or言及を意味する
▼は入店を意味する

③：出演者の入場

サイモン→レネハン→ボイラン→ブルーム→ベンの入店 = 追走
ブルームはボイランを追っかけて酒場に入る

④：征服者の足音

チンジャラ、チンジャラ→チン鈴リンリン軽やかチンジャラ→チンリン軽やかめらめら小人を→チン鈴チンリン
⇒征服者の登場を盛り上げる

⑤：花の3重奏

(上着の花、誰から？)、(花、誰からもらったの？)、ライ麦畑に花盛りの花咲くテーブルを通り過ぎる

⑥：「鐘を鳴らせ」→「恋人よさらば」

リディアのガーターベルトとボイランの勃起(ホーン)⇒ボイランとリディアの2重奏
このあと、征服者ボイランはセイレーン＝ドゥーズの誘惑にも負けず酒場を去る

～第3楽章：動揺～

ページ数(U-Y)	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463
ドゥース・ケネディ										
サイモン(テノール)										
ベン(バス)	⑦	⑧				⑨				
ブルーム					⑨					⑩
ボイラン										

* オレンジの塗り潰しはそのページ(U.Y.)での登場or言及を意味する

⑦：征服者の出立

チンリロボロンが軽やかにいく(ボイラン) + あいつはいった(ブルーム) + どうしてあんなに急いで(ドゥース)
⇒ 去ったボイランをそれぞれ想う二人

⑧：カリュプソーの回想

焦げ臭いわ。ポール・ド・コックのを、前言とおりなにせ臍物に目がない男

⑨：征服者の面影

ポール・ド・コックのを + 大尽ボイランの～勃起⇒ 苦悩するブルームと颯爽ともリーのもとに向かうボイラン
(リドウェルが)リディアの手を握った + チンジャラリン⇒ ドゥースの新たな恋と先ほどまでの男

⑩：夢遊病の女

眠ったまま女は男のもとへいく～チン鈴と二輪馬車が。もう遅い。
⇒ ベンの歌に合わせて、モリーのもとに向かうボイランに苦悩する

～第4楽章：魅惑～

ページ数(U-Y)	464	465	466	467	468	469	470	471
ドゥース・ケネディ								
ブルーム		⑪	⑫ ⑬		⑭			
サイモン(テノール)								
ボイラン								

⑪：紐の行方

巻き付け、それを伸ばし、弛めーきつく締め上げた

輪をこしらえ、輪をほどもき・・・

ゆるんだ指で腸弦紐を引っ張った

⇒ブルームの手癖か、はたまたオデウセウスのようにセイレーンの誘惑に負けないように自らの身体を縛りつけるものか
ぶーん。パチンと切れた⇒このあと音楽の世界から手紙へと彼の関心は移る

⑫：奇妙な一致

マルタだ、(中略)やっぱり名前が。マーサずいぶん妙なことばかり！今日は

⑬：ヒロインの混同

どんな香水を貴女のライネック樹の芳香の

⇒マーサとモリーが混同する

⑭：サイアポルド！

3人の調和による芸術的瞬間！

～第5楽章：気晴らし～

ページ数(U-Y)	472	473	474	475	476	477	478	479
ドゥース・ケネディ								
ブルーム ⑮	⑯	⑰						
サイモン								
ボイラン								⑲
ベン(バス)								
盲の青年						⑱		

⑮：手紙

舞台はブルームの手紙が中心

⑯：ブルームの方程式

九の七倍引くxは三万五千だよ。(次ページ参照)

⑰：Henry Flower

実際にジョイスは当時の文通相手にJames Joyceと署名したとのこと

参考：Article in James Joyce Quarterly・January 2017

DOI: 10.1353/jjq.2017.0006

⑱：『こつ』

音叉を忘れた盲の青年が近づく

⑲：ノッカーでノックして

ついにその時は訪れる

ブルームの方程式

* 以前の資料には誤りがあったので訂正しました

九の七倍引くxは三万五千だよ。(U-Y 11. 472)

$9 \times 7 - x = 35000 \therefore x = -34937 \Rightarrow$ 果たしてこの数字に意味があるのか...

$\Rightarrow$ 普通に代数的に解くのではなく直前まで述べられていた通り音楽と数の関係から解くべき

12音階による解析

九の七倍引くxは三万五千だよ。 : 9は『ソ#』にあたる

12音階は12で1周期

数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
音階	ド	ド#	レ	レ#	ミ	ファ	ファ#	ソ	ソ#	ラ	ラ#	シ	ド	ド#	レ

九の七倍引くxは三万五千だよ。 : 『ソ#』の7倍音は3オクターブ上の同音『ソ#』の半音低い $\rightarrow$ 『ソ』



ブルームが言う通り 2^n は同音となる (U-Y 11.472)

<https://楽典.com/gakuten/baion.html>

九の七倍引くxは三万五千だよ。 : $35000 \div 12 = 34992$ 余り8 $\Rightarrow$ 35000は『ソ』

『ソ』からx引くと『ソ』になる $\Rightarrow x = 12n$ (nは整数) 12を足したり引く分には音は変わらない

マーサの正体(第11挿話までの要素で)

①マーサ＝ミス・ダン説

第10挿話のミス・ダン (いずれもU-Y 11.389)	考察
派手な便箋をタイプライターに差し入れた	“派手な”手紙を使って誰かとやり取りしている
いったいあの人は愛しているのかしら、マリアンを	マリアン・ブルーム(U-Y 10.111) マリアン・ブルーム夫人(U-Y 11.456) ⇒ヘンリー(ブルーム)は妻を愛しているのかしら
そんなに美人じゃないわね	何かへの嫉妬＝ヘンリーの妻への嫉妬

②マーサ＝モリー説

第5挿話のマーサの手紙 (いずれもU-Y 4. 138)	考察
他界行儀が好きじゃないんです I do not like that other world	スペルミスをすることからあまり教養がないことがうかがえる モリーはスペインがルーツのためあまり英語が得意ではない
奥さんがどんな香水使ってるか教えて知りたいの	自分の使用している香水と同じか確かめたかった？

どちらも決定的な要素にかける。今後の挿話に期待

～第6楽章：フィナーレ～

ページ数(U-Y)	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493
ドゥース・ケネディ														
ブルーム			②①	②②		②③	②③							②③
サイモン														
ボイラン														
ベン(バス)	②④													
盲の青年														

②④：クローピー・ボーイ

アイルランド蜂起に参加した少年が、罪の懺悔に司祭のもとを訪れた際、司祭に扮した兵士に捕まり処刑される歌。
作中、その場面がベンにより歌われる

②①：すべて逝きたりーもう今や遅すぎる。ーもしまだ？

モリーがボイランに征服されたことを合わせて、クローピー・ボーイの少年と自らの運命を重ねる

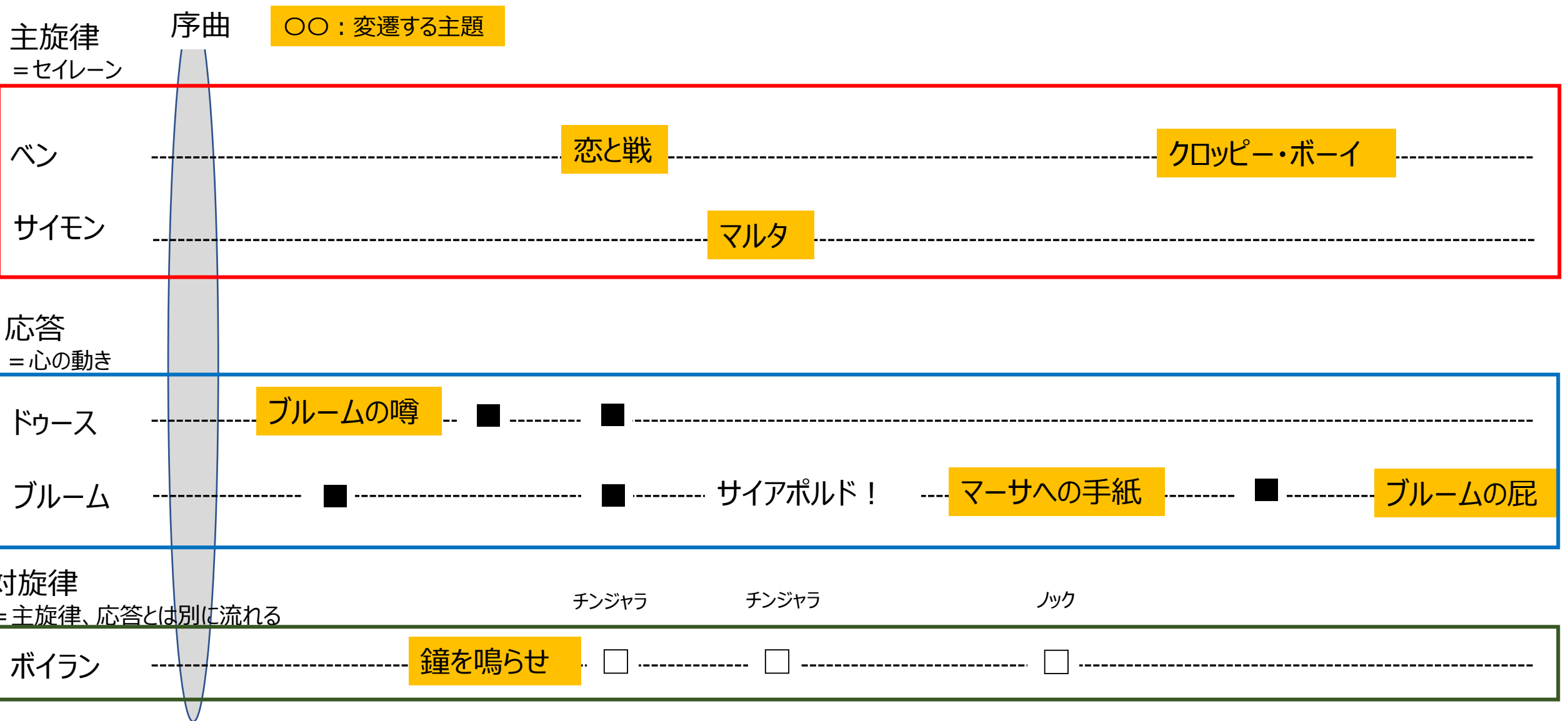
②②：ヘンリー。おれは署名しなかった

①⑦と合わせてHenry Flowerはeがローマ字ではなくギリシア文字であるため私の筆跡ではないとブルームは主張できる

②③：ぶつぶつ

ブルームの屁の音、ブルームの体内で風が渦巻く
ぶふううぶふううぶふうぶふう。ブルームの豪快な屁により壮大なフィナーレを迎える

第11挿話：構成のまとめ



主題は変遷しつつもセイレーン(主旋律)とそれに魅了される人々(応答)、掻き乱す者(対旋律)の3者で第11挿話は奏でられる
ただし主題間の模倣、反復といった関係性は希薄なため、そこをクリアしたらより音楽的で美しい挿話にできたのでは・・・

第11挿話：生活者としての解釈～ベートヴェンの運命に寄せて～

Ludwig van Beethoven
Symphony No. 5 in C Minor, Op. 67

Violino I

Allegro con brio *♩ = 108*

ff

Viol. II Viola p

Viol. II

Viola

cresc. f

22 ff p

31 cresc. sf sf sf sf sf

チンジャラ チンジャラ

主題：ダ・ダ・ダ・ダーン
⇒転調して第1楽章では
度々現れる

転調しつつも同じメロディを繰り返し迫りくる運命
= **ボイランの足音**

主題の間のメロディは近づく運命に対しての
主人公の心の葛藤に思える=ブルームの心理

運命はこのように扉を叩く
(実はこのエピソードは後世の作ったフィクションらしいですが・・・)
ハック

ボイラン

ブルーム

ダ・ダ・ダ・ダーン

ダ・ダ・ダ・ダーン

ダ・ダ・ダ・ダーン

苦悩

苦悩

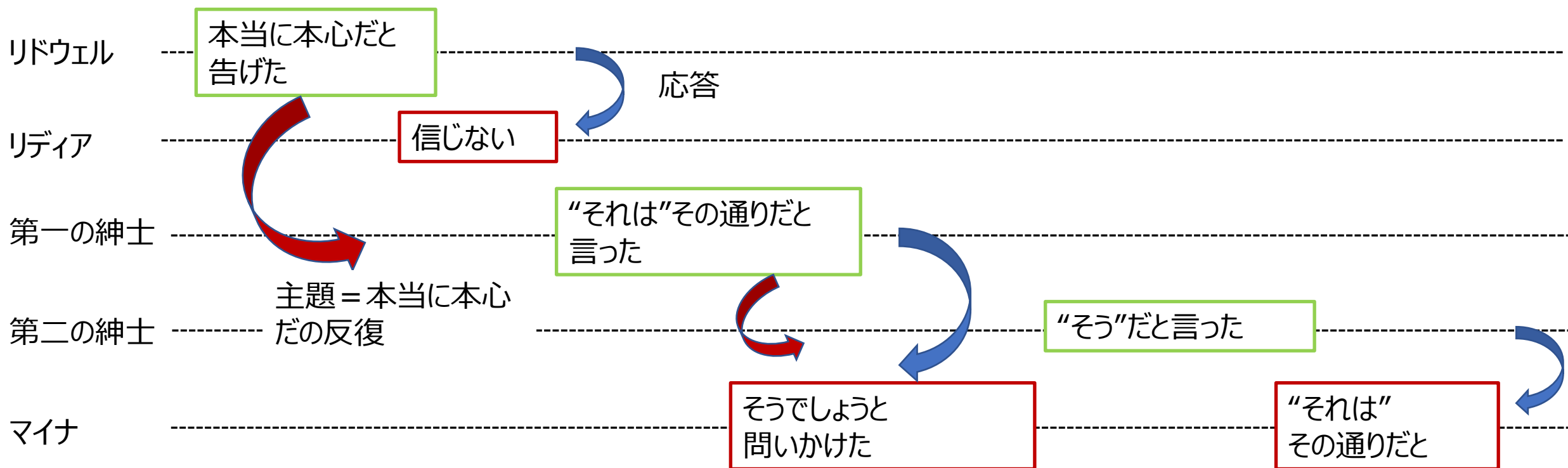
ボイランの足音を主題にすると第11挿話はベートヴェンの『運命』のようにも感じられる

文章に見るフーガ①

ジョージ・リドウェルはほんとうに本心だと彼女に告げた。しかし彼女は信じない

第一の紳士がマイナにそれはその通りだと言った。彼女は彼にそうでしょうと問いかけた

すると第二の大ジョッキは彼女にそうだと言った。それはそのとおりだと。（U-Y 11. 471）



リドウェル→第一の紳士→第二の紳士への主題の変遷とそれに応答するリディアとマイナ

文章に見るフーガ②

ドゥーズ嬢は、リディア嬢は、信じなかった。

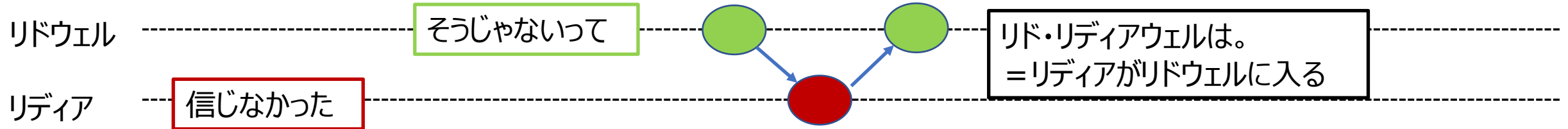
ケネディ嬢は、マイナは信じなかった。

ジョージ・リドウェルは、そうじゃないって。

ドゥー嬢は信じない。

第一の紳士は、第一紳士は、大ジョッキの紳士は信じるね、いや、いや、信じない。信じなかった

ケン嬢は。リド・リディアウェルは、大ジョッキは。 (U-Y 11.471)



- ・
- ・
- ・

リド・リディアウェル：フーガ＝追走曲にて一方が追いついて合わさっている様子を表現

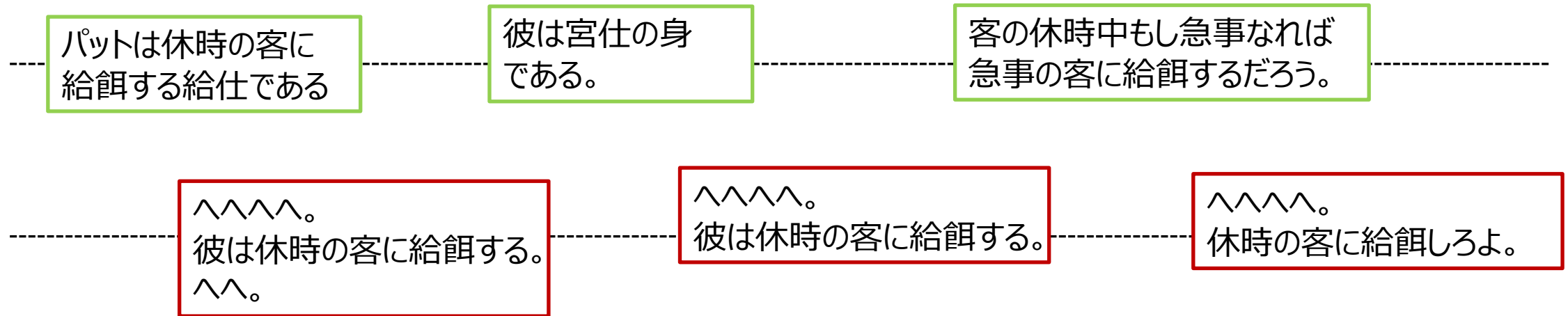
文章に見るフーガ③

パットは難聴の給仕である。

パットは休時の客に給餌する給仕である。^^^^。彼は休時の客に給餌する。^^。

彼は宮仕の身である。^^^^。彼は休時の客に給餌する。

客の休時中もし急事なれば急事の客に給餌するだろう。^^^^。はは。休時の客に給餌しろよ。(U-Y 11.476)



緑の箇所でパットに関する情報が次々に付与 + 赤の箇所では一定のリズム
→読み進めていくにつれ文章が盛り上がりを見せる

視点の切り替えとミスリード



読者を茶化する存在

ウェイター

パットは難聴の給仕である。

ウェイト

ウェイト

パットは休時の客に給餌する給仕である。^^^。彼は休時の客に給餌する。^^。

彼は宮仕の身である。^^^。彼は休時の客に給餌する。

客の休時中もし急事なれば急事の客に給餌するだろう。^^^。はは。休時の客に給餌しろよ。(U-Y 11.476)



この文章で読者に必要な情報は最初の1文の『パットは難聴な給仕である』ということのみ

ウェイター

ウェイト

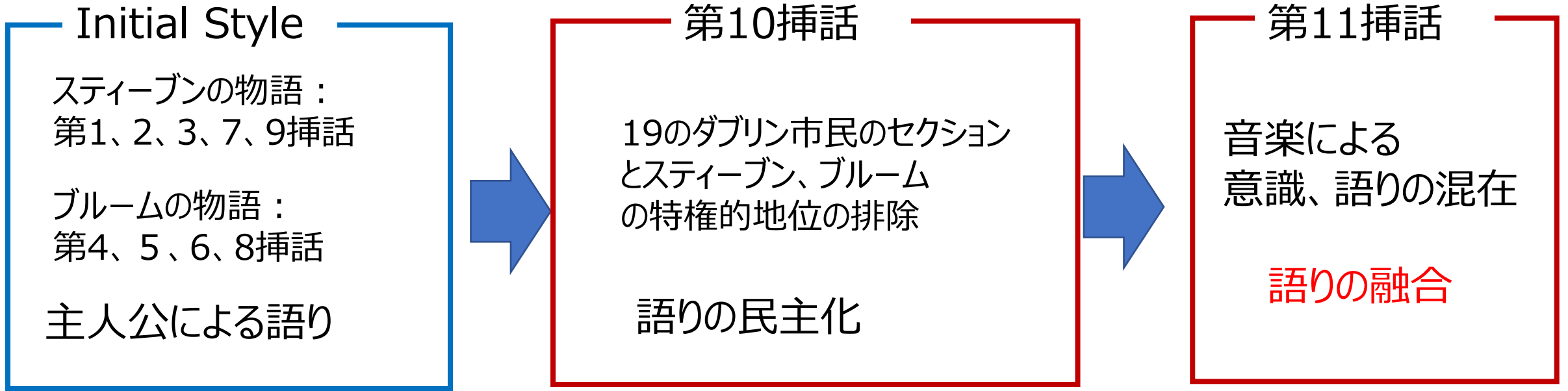
2行目以降の文は給仕という単語から休時を連想した介入者の意識・独白

“^^^”は自分の言葉遊び、ダジャレを自分で笑っているものとも解釈できる

⇒ここにきて介入者が全面的に登場

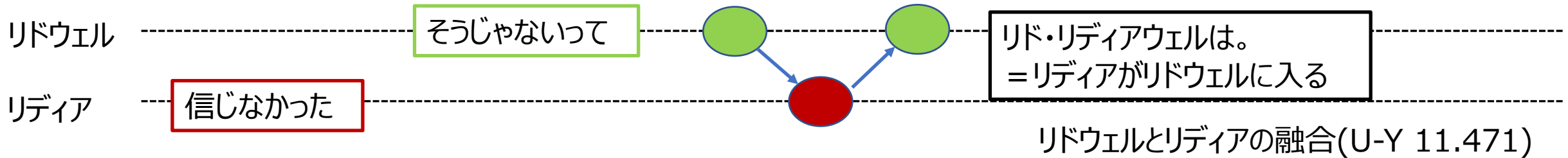
積極的に読者を茶化し自らの意識をテキストに残す介入者が存在する

まとめ：ユリシーズにおける第11挿話の意義



サイアポルド!

歌に想いを寄せるサイモン/ライオネル/ブルームの意識の融合(U-Y 11.468)



第10挿話で解き放たれた個々の意識、語りが『音楽』により融合される